



湖月抄

あ

三



天曜文庫

いづれ成玉の思ふより多うよなりてまよふもあつていづれなるなり今原成玉と
見玉且ようとくして三日すての御風とつづく林のまよふ文玉のまよふの青とらひか
くともいふゆゑ人のまよふ也 孟周公書都よりつづく尚書ありこれと下は合く

いづれ成玉の思ふより多うよなりてまよふもあつていづれなるなり今原成玉と
見玉且ようとくして三日すての御風とつづく林のまよふ文玉のまよふの青とらひか
くともいふゆゑ人のまよふ也 孟周公書都よりつづく尚書ありこれと下は合く

いづれ成玉の思ふより多うよなりてまよふもあつていづれなるなり今原成玉と
見玉且ようとくして三日すての御風とつづく林のまよふ文玉のまよふの青とらひか
くともいふゆゑ人のまよふ也 孟周公書都よりつづく尚書ありこれと下は合く

いづれ成玉の思ふより多うよなりてまよふもあつていづれなるなり今原成玉と
見玉且ようとくして三日すての御風とつづく林のまよふ文玉のまよふの青とらひか
くともいふゆゑ人のまよふ也 孟周公書都よりつづく尚書ありこれと下は合く

いづれ成玉の思ふより多うよなりてまよふもあつていづれなるなり今原成玉と
見玉且ようとくして三日すての御風とつづく林のまよふ文玉のまよふの青とらひか
くともいふゆゑ人のまよふ也 孟周公書都よりつづく尚書ありこれと下は合く

いづれ成玉の思ふより多うよなりてまよふもあつていづれなるなり今原成玉と
見玉且ようとくして三日すての御風とつづく林のまよふ文玉のまよふの青とらひか
くともいふゆゑ人のまよふ也 孟周公書都よりつづく尚書ありこれと下は合く

いづれ成玉の思ふより多うよなりてまよふもあつていづれなるなり今原成玉と
見玉且ようとくして三日すての御風とつづく林のまよふ文玉のまよふの青とらひか
くともいふゆゑ人のまよふ也 孟周公書都よりつづく尚書ありこれと下は合く

わやうとくして三日すての御風とつづく林のまよふ文玉のまよふの青とらひか
くともいふゆゑ人のまよふ也 孟周公書都よりつづく尚書ありこれと下は合く

いづれ成玉の思ふより多うよなりてまよふもあつていづれなるなり今原成玉と
見玉且ようとくして三日すての御風とつづく林のまよふ文玉のまよふの青とらひか
くともいふゆゑ人のまよふ也 孟周公書都よりつづく尚書ありこれと下は合く

あつれり

仁王會 細七雅即滅の心よ

本也 飛田河 仁王會

仁王會 細七雅即滅の心よ

姓安樂 帝王替喜 日月

鬼城謂之七難 仁王經

持統天皇 御宇 始渡家

本朝三月 被行仁王會

例 天曆六年三月廿七日

被行臨時 仁王會 一代一

度被行之抄 卷末

ひかり 細 叢書ののま

本夷伝の附天多のま

降電 金光明經 火雷雨電

代貞元四年 咸四月五日

電落大如輝 長和三年

三月 雷鳴氷降大如輝

あつれり

仁王會 細七雅即滅の心よ

本也 飛田河 仁王會

仁王會 細七雅即滅の心よ

姓安樂 帝王替喜 日月

鬼城謂之七難 仁王經

持統天皇 御宇 始渡家

本朝三月 被行仁王會

例 天曆六年三月廿七日

被行臨時 仁王會 一代一

度被行之抄 卷末

ひかり 細 叢書ののま

本夷伝の附天多のま

降電 金光明經 火雷雨電

代貞元四年 咸四月五日

電落大如輝 長和三年

三月 雷鳴氷降大如輝

あつれり

仁王會 細七雅即滅の心よ

本也 飛田河 仁王會

仁王會 細七雅即滅の心よ

姓安樂 帝王替喜 日月

鬼城謂之七難 仁王經

あつれり

仁王會 細七雅即滅の心よ

本也 飛田河 仁王會

仁王會 細七雅即滅の心よ

姓安樂 帝王替喜 日月

鬼城謂之七難 仁王經

持統天皇 御宇 始渡家

本朝三月 被行仁王會

例 天曆六年三月廿七日

被行臨時 仁王會 一代一

度被行之抄 卷末

ひかり 細 叢書ののま

本夷伝の附天多のま

降電 金光明經 火雷雨電

代貞元四年 咸四月五日

電落大如輝 長和三年

三月 雷鳴氷降大如輝

あつれり

仁王會 細七雅即滅の心よ

本也 飛田河 仁王會

仁王會 細七雅即滅の心よ

姓安樂 帝王替喜 日月

鬼城謂之七難 仁王經

足つめらうよしてはせよれづらして 研 汝をのせれ人の少くせん人といふはさむじん
くろくをいふしうしてまゝの林のこもあやまのいじを背あむりて人といふと
かんと
くろくをいふしう 幸若のいふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん
さぞしして 研 汝は初ハ 幸若のいふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん
これよりいふ 細 汝は位にさむじんといふはさむじんといふはさむじん
と 齢にけさる人といふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん

くろくをいふしう 幸若のいふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん
さぞしして 研 汝は初ハ 幸若のいふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん
これよりいふ 細 汝は位にさむじんといふはさむじんといふはさむじん
と 齢にけさる人といふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん

くろくをいふしう 幸若のいふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん
さぞしして 研 汝は初ハ 幸若のいふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん
これよりいふ 細 汝は位にさむじんといふはさむじんといふはさむじん
と 齢にけさる人といふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん

くろくをいふしう 幸若のいふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん
さぞしして 研 汝は初ハ 幸若のいふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん
これよりいふ 細 汝は位にさむじんといふはさむじんといふはさむじん
と 齢にけさる人といふはさむじんといふはさむじんといふはさむじん

細く細く... 怨者其吟悲
のふかり 嘆くゆへ
思は依るくも

入るびんの法師
細者八音者琵琶とい

死後琵琶引わりく法師
也。南阿の盲国也
小右記云凡琵琶法師
全天下才藝録少録云
寛和元年七月十八日

細く細く... 細く細く...
細く細く... 細く細く...

細く細く... 細く細く...
細く細く... 細く細く...

細く細く... 細く細く...
細く細く... 細く細く...

わづらねまひ... 細く細く...
細く細く... 細く細く...

細く細く... 細く細く...
細く細く... 細く細く...

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Handwritten text in the upper section of the right page, including a reference to '田一住四ヶ條の人'.

Main body of handwritten text on the right page, written in vertical columns.

Handwritten text in the upper section of the left page, including a reference to '田の調君'.

Main body of handwritten text on the left page, written in vertical columns.

若しうらハ入母まの
らくはは娘をすつてせ
んハ身其の念歌うと
ハあひまがうりそま
うてえせせとま
けうとあつちうり
歌ううらんとあやか
うまゆ

そいふ人とは
いふまゝ思ふなり
我じとあはれは
つゝん

しるし
今ふむ
そい

うらまのうらまの
らくはは娘をすつてせ
んハ身其の念歌うと
ハあひまがうりそま
うてえせせとま
けうとあつちうり
歌ううらんとあやか
うまゆ

そいふ人とは
いふまゝ思ふなり
我じとあはれは
つゝん

うらまのうらまの
らくはは娘をすつてせ
んハ身其の念歌うと
ハあひまがうりそま
うてえせせとま
けうとあつちうり
歌ううらんとあやか
うまゆ

もそりハ程もあるべ
それハ日殺ふらん中
衣とうとうとつりあが
着の弁 明心の上

細今 今更のちりはあ
く 師 入るんぞー
て 入るんぞー

世の者く彼者とは
世の者く彼者とは
世の者く彼者とは

細い 細い
細い 細い
細い 細い

細い 細い
細い 細い
細い 細い

とそりハ程もあるべ
それハ日殺ふらん中
衣とうとうとつりあが
着の弁 明心の上

細今 今更のちりはあ
く 師 入るんぞー
て 入るんぞー

世の者く彼者とは
世の者く彼者とは
世の者く彼者とは

細い 細い
細い 細い
細い 細い

細い 細い
細い 細い
細い 細い

と明心をすり持て
わうに信あるわう
は又ちとてん
てはす
この信は又ちとてん

細い 細い
細い 細い
細い 細い

細い 細い
細い 細い
細い 細い

細い 細い
細い 細い
細い 細い

細い 細い
細い 細い
細い 細い

細い 細い
細い 細い
細い 細い

細い 細い

細い 細い

細い 細い

細い 細い

細い 細い

細い 細い

細い 細い

細い 細い

細い 細い

細い 細い

細い 細い

あふりきくまがさき

つらふり 佛不縁の事

よつとて山位とけしん

とせわとてゆんちんがう

のほひるもせし

細而白物定く八月十八日

也抄書の真多き 晴海上

の原成。作らるるべし佛抱

りあそわらるるべし佛抱

面白

河大海百二に神日本紀

海底 蘇我海軍 百十 五

うと海の名く 百十 五

あつとまうとつたえ

うたれとらうとらう

うらうく細物とひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらうとらうとひる

うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい

うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい
うらたてい 細うらたてい

